

あったようです。子ども達の楽しそうな表情は「CAIの有効性」を、授業者の振る舞い方は「CAI授業での先生の役割」を正しく理解してもらおうと役立ちました。

寸劇を取り入れた模擬授業（埼玉県坂戸市）
坂戸市の研修会では、「CAI授業での先生の役割」についての研修で寸劇が取り入れられました。「よくいる困った先生」が次々に演じられ、会場中でクスクス笑う声が絶えませんでした。受講生を引き込み夢にさせる工夫は他にも随所があり、楽しみながら力がつく研修になっていました。



模擬授業で「ハイ、先生！」（坂戸市）

2. 残念に思えたことがら

この夏の研修会は、概ね成功でした。しかし、問題がまったくなかったわけではありません。他の地域でも起こりえる問題を取り上げ、コメントを加えておきたいと思えます。

日程の調整不十分

中央研や学会と日程が重なったため、ECO Newsがお手伝いできなかった地域が幾つかありました。講師派遣を希望される地域は、日程の調整が必要です。要望だけでも、早めにECO Newsへお伝え下さい。

企画担当者の引継不十分

研修会の企画担当者が前回と替わった地域で、引継が不十分であったため、研修が大幅にレベルダウンしかけた地域がありました（注：直前に立てなおしが図られましたので、結果的には大成功を納めました）。

企画担当者が代わる度に、振り出しに戻るようでは進歩がありません。異動や世代交代を想定し、次の担当者を育てよう心掛けて下さい。

受講生への配慮に欠けたインストラクター

ある研修会に参加した方から、「研修中、隅の方で、インストラクターたちがずっと雑談をしており嫌な感じだった。」という話を聞きました。雑談でなく、打ち合わせだったのかもしれませんが、受講生への配慮が欠けていた点については反省する必要があります。

3. 来年へ向けての展望

これから研修会を企画される皆さんにお願いしたいことを、あげておきます。

参加者のフォローアップ研修を！

研修会に一度参加した先生方のための、フォローアップ研修がそろそろ必要になってきています。自分でやりはじめると、わからないことや戸惑うことが色々出てくるものです。そしてその問題点は、人により様々で同じではありません。フォローアップ研修では、個々の受講生が抱えている問題を的確に把握し、それに応じた研修を用意して行く必要があります。

実績がある地域では研修内容の多様化を！

技術の進歩にあわせ、コンピュータの利用範囲はどんどん広がっています。たとえば、スタディシリーズに限っても、タイムライターがWindows版でマルチメディア対応になりました。また、エバルやノートなど新しいタイプのソフトも生まれてきています。研修会を数年以上続けてきた地域では、初心者向けのCAI研修に加えて、CAIの応用・発展的な研修、ノートなど新しいタイプのソフトを活かすための研修なども用意することを考えてみて欲しいと思います。

後継者の育成や仲間のネットワーク作りを！

残念に思えた点の に関わるのですが、コンピュータ教育は、指導主事や特定の先生が孤軍奮闘されているだけでは長続きしません。各地域で、計画的にインストラクターの仲間を増やし、指導者層を厚くして行って下さい。

インターネットとこれからの学校教育 - 2 中山和彦

インターネットで入手できる情報

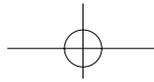
インターネットでは、様々な情報を入手できます。ですから、インターネットで遊んでいると、とても楽しくて、つい時間が経つのを忘れてしまいます。

例えば、アメリカのある博物館ではそこにある標本のほとんどを写真に撮って載せてあります。また、ホワイトハウスのWWWにつなぐと、大統領のメッセージを文字だけでなく音声でも聞くことができます。NASAの

WWWでは、ロケットが飛んでいくところをムービーで見られることもできます。

それから、プロジェクト・グーテンベルクという試みも注目したいものの一つです。このプロジェクトでは、世界の古典の全文をコンピュータに入れておき、誰でも必要な人が引っぱり出して使えるようにしています。

他にも、インターネットでは、エンサイクロペディア・ブリタニカやシソーラス（注6）などが使えるようになっ



STUDY SERIES ニュース No 24 12/22

コースをECO Newsへ寄託された先生方へ...
Win版スタディライターを無償でご利用頂けます!
スタディシリーズのWindows版が来年2月に発売されます。(前号では12月と案内しましたが、少し遅れるようです)

ECO Newsでは、自作コースを教材ライブラリへ寄託された方で、Windows版へのコース改訂に挑戦してみたいと考えておられる方に限り、スタディライター for Windowsを無償でご利用いただけるようにしました。ご希望の方は、ECO News係までご連絡ください。

中央研Aコースのインストラクターを務めて

太田宏(筑波大学学術情報処理センター内地留学生)

私たち内留生は、Aコースのインストラクターを務めました。今回、よかったと感じたことは、二つあります。

一つは、「本当に自分にもできるのかなと初めは不安だったが、入力したものが実際に動いたときは何ともいえないものがありました。」という感想が多かったこと。自分も『やれば、できるんだ』という感激を多くの先生方に味わってもらえたことです。

もう一つは、必要に迫られて仕方なく参加したという先生が、「時代の流れだから仕方ないか、何も機械で指導しなくても・・・」という、それまでの考え方を改め、参加してよかったと思ってもらえたことです。そして、「もう少し日数をかけて教えていただき、もっと自信を持って学校へ戻れるようになりたかった。」と、CAIに積

極的な姿勢に変わられたことです。

そうした変化のきっかけは、行動目標の研修にあったように思います。学習目標を徹底的に洗い出し、「できる」「できない」のレベルにまで掘り下げ、構造化することは、普段の授業においても必要なことです。ですから、スタッフ全員、ここでは一番力を注ぎました。そして、最終チェックでは、中山先生が直接面接して、受講生全員の行動目標を一つ一つ指導されました。

この部分の研修は、2日目の朝から始め、午後7時半全員が合格するまで続けました。受講生にとって一番の難所だったように思います。教育目標が曖昧なままで授業をしていることが多い中、この経験は、自分自身の授業の組み立て方を問い直す、よいきっかけになったのではないのでしょうか。

行動目標ができてしまえば、コース作りは半分以上終わったようなものです。フローチャートを書き始めコーディング用紙を書き上げ、コンピュータに向かうまでにそれほど時間はかかりませんでした。先生方は、時が経つのを忘れてコース作成に没頭し、研修終了時刻を過ぎても研修室に残って、午前2時過ぎまで頑張られました。

3日目の発表会の内容の素晴らしさは言うまでもありません。発表のとき、どの先生の顔にも満足そうな笑みと自信がみなぎっていました。

中山先生から「中央研のAコースは、内留生6名がメインスタッフだ」といわれ、私たちは4月から研修会の準備を進めてきました。

研修が終わり、会場を去られる先生方の横顔を見ながら、お役にたてたことへの充実感を味わいました。ありがとうございました。

■■■■ ECO News No. 43で紹介したコースウェアのコース名および内容に間違いがありました。お詫び
■■■■ 正しくは、下記のとおりです。会員の皆さま、コース作成者の皆さまに、ご迷惑をおかけ致しました。お詫び申し上げます。

No.	科目	学年	コース名	サイズ	作成機関・作成者	児童・生徒の活動とコンピュータの役割
90	算数	小5	分数の大きさくらべ	318kB	神戸市 小学校教育研究会 教育工学グループ 岡本正廣、 山本正彦	まちがえると、ステップを細かくして出題されるので児童は自分の能力に応じて通分の学習を進め、分母の違う分数の大きさを比べることができるようになる。ECO登録コースの「倍数と公倍数」「分数島」についてシリーズで学習すると効果的。
91	社会	小3 小4	神戸のびのびアドベンチャー	952kB	神戸市立 南落合小学校 岡本正廣	神戸市内のさまざまな施設めぐりを疑似体験するコース。より多くの施設をめぐるためには、いろいろな交通機関を乗り継ぐ必要があり、高度に発達した神戸の交通網について学習できる。こうした公的交通機関の少ない地域の児童にとっても、貴重な体験を与えてくれる。

編集後記 今年も年末ぎりぎりの発行になりました。寂しくなったセンターで、中山教授をはじめ、わずかなスタッフで、ECO Newsの封筒詰めや切手貼りをするのが恒例になりかけています。皆さま、よいお年をお迎え下さい。



連絡先

〒305 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学
学術情報処理センター4F ECO News係
Tel. 0298-53-2454
Fax. 0298-53-2983
Email:HGE02365@niftyserve.or.jp